



ORACLE

イノベーション・ガイド

資金予測の精度向上の実現



はじめに

他の何よりも、企業の寿命と財務の健全性の決定打となるのは、資金流動性です。資金があれば、企業は多くの選択肢を持つことができます。キャッシュポジションが強固であれば、企業は機会や課題への対応をコントロールすることができます。つまり、自分の運命は、自分で切り拓くことができる、ということです。

最近の[PwCによるグローバルの財務調査](#)において、調査対象の回答者の大多数が、資金・流動性管理をしっかりと行うことの重要性を認めています。これは財務担当者だけでなくCFOにおいても同様です。

資金・流動性管理は、依然としてCFOにとって優先度の高いトピック

CFOにとっての財務上の最優先トピック

Q: 自社のCFOが優先して取り組んでいる財務関連のトピックは何ですか？

- 1 資金調達/資本構成
- 2 資金・流動性管理
- 3 事業との関係
- 4 合併および買収 (M&A)
- 5 テクノロジーとデジタル・イノベーション
- 6 不正リスクとサイバーセキュリティ
- 7 人材管理
- 8 税制上の影響

財務担当者にとっての最優先トピック

Q: 自社の財務担当者が優先的に取り組んでいる財務関連のトピックは何ですか？

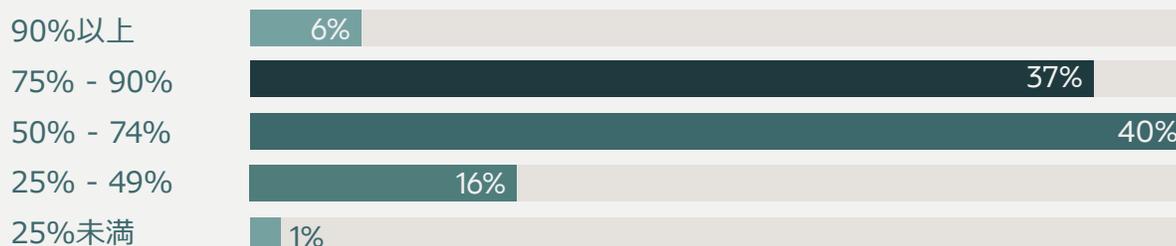
- 1 資金・流動性管理
- 2 資金調達/資本構成
- 3 財務リスク
- 4 銀行管理
- 5 テクノロジーとデジタル・イノベーション
- 6 運転資金
- 7 不正リスクとサイバーセキュリティ
- 8 事業との関係

資金・流動性の管理には、キャッシュポジショニング、資金予測、調整、社内銀行業務、銀行取引の仕訳入力、総勘定元帳への取引計上、銀行取引と会計入力の照合など多くのタスクが含まれます。

出典: PwC, "Responding to demands to optimize cash," 2021

しかし、資金管理というのは予測が難しく、多くの企業がその対応に苦慮しています。[APQCの調査](#) (American Productivity & Quality Center) では、資金予測の精度が75%以上になったと考える回答者は、わずか43%にとどまりました。

資金予測



調査回答者のうち、典型的なキャッシュ・フロー予測の精度（75%以上）を実現できているのは43%のみであり、大半は少なくとも50%の精度です。精度の低いキャッシュ・フロー予測は、支払い遅延やサプライヤーとの関係の悪化など、悪影響を及ぼす可能性があります。

出典: “Delivering Treasury Success in the Next Normal”; APQC, September 2020

企業は、予測精度の改善に向けた最先端の資金・流動性管理のソリューションを求めています。具体的には、全体的でリアルタイムな資金データの把握と、資金流動性の正確な予測ができるツールを求めています。予測精度を改善することにより、企業は顧客やサプライヤー、投資、社内異動などに対してタイムリーでデータ・ドリブンなアクションと運転資金の最適化を実現することができます。

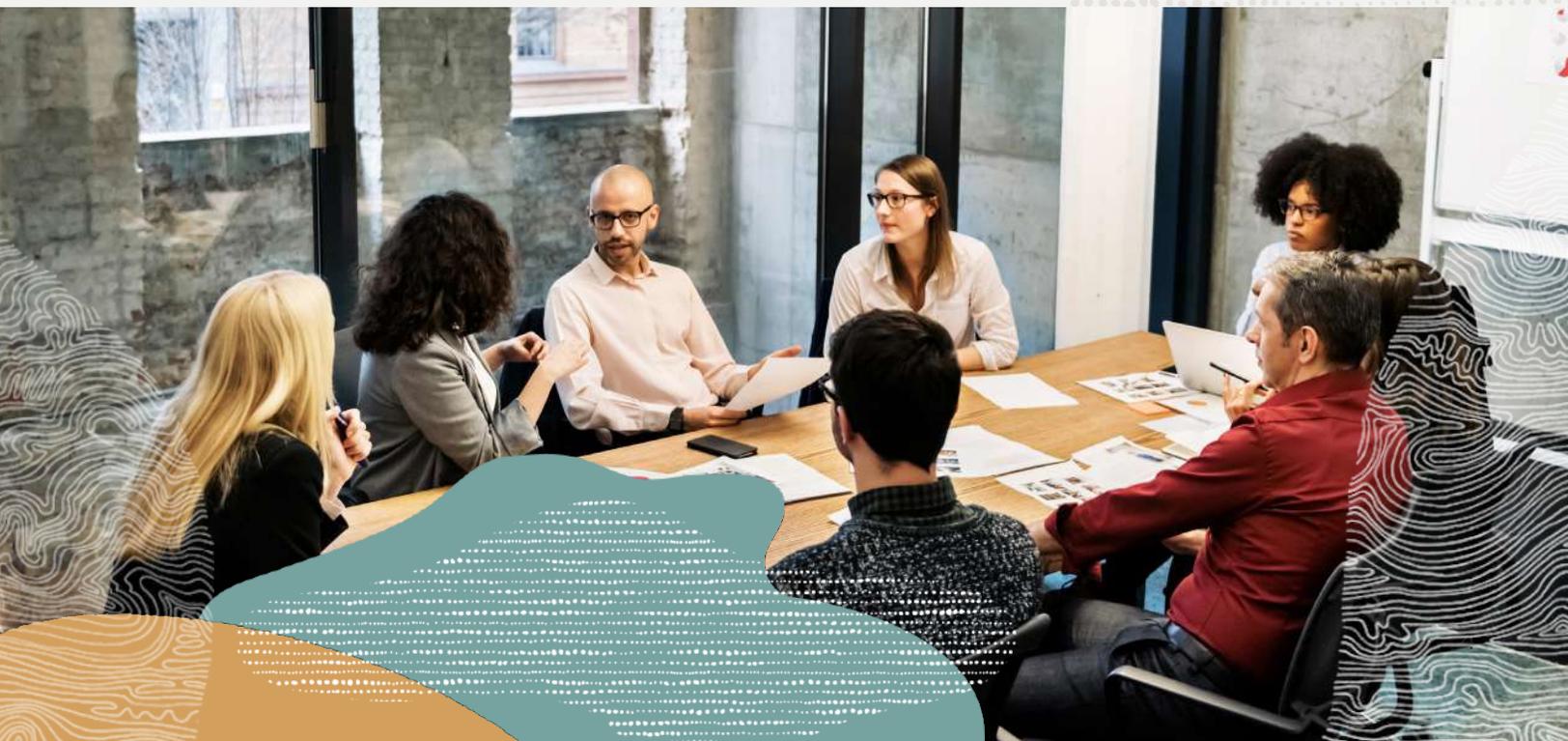


資金予測の精度向上によるメリット

今後の資金流動性を継続的に予測することで、企業は収益性の高いアクションと、より迅速な軌道修正を行うことができます。たとえば余剰現金があった場合、サプライヤーに対して早期支払割引を利用できます。一方、現金が乏しい場合には、融資ポジションの見直しや、子会社間で為替取引を行うなどして、健全な流動性を維持することができます。

最新の現金残高と、今後を見据えた十分な情報があれば、次のことが可能になります。

- ✓ **事業を継続**し、環境や市場、規制、社会、および経済情勢によってもたらされる、財務上の課題に耐えることができます。
- ✓ **事業に再投資**し、新たな販売チャネルの構築や資本改善を行うことができます。
- ✓ **現預金要求を満たす**ことができます(給与、分配、配当、負債および債務の支払いなど)。
- ✓ **投資家を引き付ける**ことで、今後の事業活動や成長に向けた資金を調達することができます。
- ✓ サプライヤーや債権者／金融業者、株主および従業員に大して、期日通りの支払いを履行することで**受託者としての責任を果たす**ことができます。



資金予測の精度向上のベストプラクティス

社内外でバラバラの業務プロセスやサイロ化したデータがあると、資金予測の精度向上は往々にしてうまくいきません。キャッシュフローの相殺やキャッシュ・バランス予測の作成は、時間がかかり、マニュアル作業のプロセスのため、エラーが発生しやすいものです。また従業員にとっても、データを集計して流し込むだけでは、新しい戦略立案や、パフォーマンス向上の取組みといった行動を起こす可能性を十分に発揮できないため、刺激の少ない仕事になってしまいます。

以下によって自社の新しい競争力を獲得することができれば、素晴らしいことではないでしょうか。

- 1 キャッシュ・フローと銀行残高、投資パフォーマンス、ローン債務などの外部データをリアルタイムで自動的にコンパイルできる。
- 2 機械学習を通じて識別されたパターンを使用して、今後の流動性を継続的に予測し、人間の判断を補完し、資金不足軽減と最適化を行う。
- 3 予測し、オペレーションや資金調達、投資と連携したアクションを行う。

正確なキャッシュ・フロー予測を実現する上での課題

この文脈では、タイミングとインテリジェンスがすべての鍵を握ります。より迅速な対応において重要なのは、資金データへのリアルタイムのアクセスです。資金データの入手が困難であったり、漏洩したり、量が多くて扱いにくかったりすると、キャッシュ・フローの正確な予測ができなくなってしまいます。まずデータを入手したら、マシン・インテリジェンスが必要です。これにより、人間では捉えづらい、かつ人間のバイアスに影響されることなく、パターンを特定することができます。貴社では、正確な資金予測を行う上で、このような課題に直面していませんか？



繋がりのない資金管理プロセスとサイロ化したデータにより、データ生成に一貫性がなく、予測業務に遅延が生じている



スプレッドシートをもとにした予測が毎月作成されるが、作成時点で既にデータが古く使えないものになってしまっている



管理が困難な銀行手数料の増加重要な銀行データに対して、リアルタイムでアクセスができない



古いツールを利用し続けており、キャッシュ・ポジションの不足軽減と最適化の機能に影響が発生している（回収戦略の変更、交渉による削減額を最大化するためのサプライヤー割引など）。



資金管理に関して、属人化された知識を持つ少数の個人に**過度に依存している**

Oracleが支援できること

Oracle Cloud Applicationsは、資金予測の精度向上を実現することができます。これにより財務および会計部門は、機械学習を使用して今後の流動性の精度を継続的に向上させながら、資金管理と予測をリアルタイムで自動化することができます。関連するすべてのデータ・ストリームを自動化することでマニュアル作業を減らし、すべての関係者が資金の最適化に向けて連携できるようになります。自動化されたインサイトとダッシュボードにより、関係者は常に資金の最新動向を把握し、足並みを揃えることができます。取引の詳細に関して機械学習を取り入れることにより、精度とスピードを向上させるとともに、運転資本の隠れたパターンや主要な要因も明らかにします。ユーザーは、重要な活動を行うことで、現金余剰の効率的な管理や、資金不足の緩和、銀行関係のより適切な管理といった、インサイトからアクションの実行までを実現することができます。

資金予測の精度向上には、
次の主なポイントがあります。



資金管理の自動化

現金、売掛金、買掛金、外部銀行データなど、関連するすべてのデータ・ストリームを1箇所で自動収集します。バラバラの業務プロセスやサイロ化したデータがあると、資金予測の精度向上は往々にしてうまくいきません。資金予測機能により、信頼できるデータで常にキャッシュ・ポジションを包括的に把握でき、特定の取引にドリルダウンすることができます。



高度な資金予測

予測アルゴリズムを活用し、日次の資金予測を自動的に生成することで、資金予測の速度と精度向上を実現します。現在、多くの企業がExcelのスプレッドシートを使用しており、予測頻度はわずか月一回となっていることがあります。財務および会計部門は、データドリブンのインサイトと、傾向や課題の迅速な発見を通じて、ビジネスとの連携を効果的に行うことで、資金の最適化に向けたよりよいアプローチを決定することができます。



コラボレーティブなアクション

資金予測の精度が向上すると、全社のリーダーは、資金予測を業務や戦略的な活動に活用できるようになります。資金予測データは、生産計画システムへ直接流すことができます。たとえばある企業では、追加のシフトを実行して、使用可能な資金を活用して顧客の追加需要に対応するといったことができるようになります。現在チームは、データの検索や収集、手動による分析ではなく、戦略の連携により多くの時間を費やすことができるようになります。



スタートしてみましよう

Oracle Cloudの資金予測の精度向上について詳細をご覧になりたい方は、チャットや電話、メールで[お問い合わせ](#)ください。

サイトにアクセスする

Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates.この文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものでもありません。当社はこの文書に関する一切の責任を放棄し、この文書による直接的または間接的な契約上の義務は生じないものとします。この文書は、いかなる形式や手段によっても、どのような目的でも事前の書面による承諾なく、電子的または機械的に再生または送信することを禁じます。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

